

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	650人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	48	7.4
80～89	128	19.7
70～79	116	17.8
60～69	154	23.7
50～59	92	14.2
40～49	62	9.5
30～39	38	5.8
20～29	11	1.7
10～19	1	0.2
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.5%)の結果である。

*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率		
1	(1)	92.8		
	(2)	86.2		
	(3)	92.5		
	(4)	ア	81.4	
		イ	52.2	
	(5)	66.0		
	(6)	76.6		
	2	(1)	65.8	
		(2)	84.8	
		(3)	96.3	
(4)		44.9		
小計		74.3		
2	(1)	70.3		
	(2)	ア	67.8	
		イ	79.2	
	(3)	42.6		
	(4)	83.2		
	(5)	52.7		
	1	(1)	77.3	
		(2)	ア	68.7
			イ	61.7
		(3)	57.8	
(4)	ウ	31.7		
	エ	60.2		
	オ	48.3		
小計		61.4		
3	(1)	67.1		
	(2)	75.7		
	(3)	52.0		
	(4)	53.1		
	(5)	55.7		
	(6)	38.2		
	2	(1)	94.2	
		(2)	56.3	
		(3)	A	85.1
			B	82.6
C			90.3	
(4)	44.6			
(5)	86.6			
小計		66.3		
4	(1)	26.3		
	(2)	ア	95.7	
		イ	49.3	
	(3)	80.5		
	(4)	62.1		
	(5)	62.3		
小計		62.7		

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1	地理的分野	52.3	66.0	71.4	65.1	74.3
2	歴史的分野	47.6	55.8	66.6	53.3	61.4
3	公民的分野	50.4	61.9	63.8	65.0	66.3
4	3分野融合	—	53.3	67.2	43.9	62.7

2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の44.9%で高得点者は増加した(昨年度30.9%)。50点未満の人数は17.2%で低得点者は減少した(昨年度29.4%)。

〈表2〉について、知識・技能を用いて、グラフや図表、年表等の諸資料を活用し、考察したことを表現する力をみる小問(1の2の(4)、2の1の(3)、3の1の(6))の正答率に、やや低い傾向が見られた。また、使われていた貨幣を時代順に並べる4の(1)は、その時代の特徴の正確な知識が要求されたため、特に正答率が低かった。

〈表3〉について、分野別の正答率は地理的分野と公民的分野が高く、歴史的分野がやや低かった。昨年度との比較では、全ての分野において正答率が高かった。3分野融合の問題である4は、昨年度に比べ、18.8ポイントも上がった。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点		
				記号選択	用語記述	記述	知識理解	思考判断	資料活用
1	1	地理的分野	(1) 大西洋の位置について理解している。		○		●		
			(2) 日本と諸外国の時差について、資料の経度を基に判断することができる。		○			●	●
			(3) 気候因子について理解している。	○			●		
			(4) アメリカの農業区分と気候との関係について、資料から読み取ることができる。		○				●
			(5) 日本の石油輸入先について、資料を基に判断することができる。	○			●		●
			(6) 日本と比べたエジプトの農業の特徴について、資料から考察することができる。			○		●	●
	2		(1) 日本国内の旅客輸送量が変化した理由について、資料から読み取ることができる。		○			●	●
			(2) 1世帯あたりの乗用車保有台数の地域差の理由について、資料から考察することができる。			○		●	●
			(3) ハブ空港の特徴について、資料から読み取ることができる。	○				●	●
			(4) 福岡市から各地への時間と距離の関係について、資料から考察することができる。			○		●	●
2	1	歴史的分野	(1) 平清盛とその地位について理解している。	○			●		
			(2) 元寇後の御家人の生活や幕府の政策について理解している。		○	○	●	●	●
			(3) 戦国大名が形成した城下町の特徴について、資料から判断することができる。		○			●	●
			(4) 島原・天草一揆の原因の1つになった江戸幕府の政策とねらいについて理解している。	○			●		
			(5) 戦いに使われた武器の違いを、年表や資料から判断することができる。			○	●		●
	2		(1) 下関条約の内容について理解している。		○		●		
			(2) ポーツマス条約締結までの過程について、資料から判断し、考察することができる。		○	○		●	●
			(3) ベルサイユ条約を結んだころの世界のできごとについて理解している。	○			●	●	
(4) サンフランシスコ条約が結ばれた背景と日本の国際連合への加盟について、資料から考察することができる。		○	○		●	●			
3	1	公民的分野	(1) 国会の役割について理解している。		○		●		
			(2) 行政の内容について理解している。	○			●	●	
			(3) 満20歳に達した時から保障される国民の権利について、理解している。	○			●		
			(4) 憲法改正が慎重な手続きをとっている理由を、資料を基に判断し、考察することができる。			○		●	●
			(5) 子ども（児童）の権利条約について理解している。		○		●		
			(6) 国際法がある理由について理解している。			○	●	●	
	2		(1) クレジットカードの保護や管理について理解している。		○		●		
			(2) 銀行のはたらきについて理解している。			○	●	●	
			(3) 需要と供給の関係について、資料から判断し、考察することができる。	○				●	●
			(4) 消費者問題について理解している。	○			●	●	
(5) 買い物弱者の解消に向けた取組について、資料から判断し、考察することができる。			○		●				
4	融合	(1) 貨幣の移り変わりについて理解している。	○			●		●	
		(2) 国宝や重要文化財と古都の関係について、資料を基に考察できる。		○	○	●	●	●	
		(3) 銅鐸がつくられたころの日本のようすについて理解している。	○			●	●		
		(4) 豪雪地帯にある家の工夫について、資料を基に考察することができる。			○		●	●	
		(5) 地方公共団体の仕事について理解している。	○			●			

4 標準解答及び考察

1 〈標準解答〉

1	(1)	大西洋	(2)	アメリカ	(3)	工	(4)	ア	放牧	イ	0
	(5)	イ	(6)	(例) エジプトは日本に比べて耕地面積はせまいが、たくさんの肥料を使って日本より多くの穀物を作っている。							

〈ねらい〉

日本の国土と同緯度に位置する国々に関する資料を基に、世界の国々と日本との関係を調べる場面の中で、地理的な見方や考え方の基礎や我が国の国土に対する認識についての基礎的・基本的な知識の理解をみる。また、地域的特色をとらえるための視点や方法が身に付いているかをみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の海洋名を答える問いや、(2)の時差に関する問い、(3)の気候の要因に関する問いは、正答率がそれぞれ92.8%、86.2%、92.5%とかなり高く、十分な理解ができています。
- ・ (4)のイの、綿花の栽培地域を資料ⅠとⅡを関係づけて判断する問いの正答率は、52.2%で、他の問いと比べてやや低く、複数の資料を関連付ける力が不足している。

〈今後の指導〉

- ・ 地理的分野の各項目で学習した成果を踏まえ、日頃から世界の国々と日本とのつながりという視点から日本の地域的特色を考察する学習の機会を設ける。
- ・ 資料を読み取る学習においては、日頃から複数の資料を比較したり相互に関連付けたりする中で、共通性や相違点などを的確に読み取り、考察させる指導を行う。

〈標準解答〉

2	(1)	高速道路	(2)	(例) 鉄道やバスなどの公共の交通機関が発達している。							
	(3)	B	(4)	(例) 福岡市からの実際の距離が近くても、移動の時間がかかる。							

〈ねらい〉

国内旅客輸送量など交通に関する資料を基に、日本の交通網の発達について調べる場面の中で、新幹線や高速道路の広がりなど地理的認識を深める上での基礎的・基本的な知識の理解、乗用車保有台数に関する資料などから仮説を設定する力などをみる。また、時間的な距離の短縮に関する資料を読み取り、地域的特色を適切に表現させることで、思考力・判断力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (2)の乗用車保有台数の地域差の理由を考察する問い、(3)のハブ空港の説明文から適切な模式図を判断する問いは正答率がそれぞれ84.8%、96.3%とかなり高い。
- ・ (4)の福岡市からの所要時間に関する正答率が、44.9%と地理的分野の中で最も低い。誤答例としては、「距離が離れているほど時間がかかる」という解答が多く、与えられた資料から距離と時間の関係を的確に考察する力が不足している。

〈今後の指導〉

- ・ 様々な資料から交通や人口移動に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色を考察させる学習の充実を図る。その際、身近な地域への興味・関心も深めさせるよう配慮する。
- ・ 様々な地理情報を使って地域的特色をまとめさせたり、疑問に対する仮説を設定させたりして、そこから見えてくる課題や解決策などを発表する学習の機会を設ける。

2 〔標準解答〕

1	(1)	ウ	(2)	ア	(例) 恩賞をもらえなかった。	イ	徳政 (永仁の徳政)
	(3)	(例) 家臣	(4)	ア	(5)	(例) ポルトガル人が鉄砲を伝える。	

〈ねらい〉

歴史の中での様々な戦いに関する資料を基に、具体的な歴史的事象を調べる場面の中で、歴史の大きな流れの中での政治の展開、社会の様子などについて基礎的・基本的な知識の理解や資料の活用能力が身に付いているかをみる問題である。

〈考察〉

- ・ (2)のイの元寇後の御家人の生活を救済する幕府の政策を答える問いと、(4)の島原・天草一揆の原因について答える問いは、正答率がそれぞれ79.2%、83.2%と高く、基礎的・基本的な知識について十分な理解ができています。
- ・ (3)の資料から城下町を形成していた人々を判断する問いは正答率が42.6%と低く、近世に関する基礎的・基本的な知識を基に、資料を的確に読み取り、判断することができていない。誤答例としては、「座」、「町人」、「農民」、「大名」が多かった。
- ・ (5)の資料から戦いの武器の変化を判断する問いの正答率も52.7%とやや低く、基礎的・基本的な知識を基に、資料を的確に読み取り、判断することができていない。誤答例としては、「長篠の戦い」、「関ヶ原の戦い」、「キリスト教伝来」が多かった。

〈今後の指導〉

- ・ 歴史的事象に対する関心を高めるため、身近な地域の歴史やテーマに基づいた具体的な事象を取り上げ、歴史の大きな流れと各時代の特色を理解できるような指導の工夫を図る。
- ・ 年表や絵図など様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し、その因果関係を理解するなど、歴史学習に対する興味・関心を引き出す授業を行う。

〔標準解答〕

2	(1)	下関条約	(2)	ア	(例) 戦費	イ	(例) 賠償金が得られなかった。	
	(3)	ウ	(4)	ウ	西	エ	ソ連	オ

〈ねらい〉

日本が外国と結んだ条約に関する資料を基に、具体的な歴史的事象を調べる場面の中で、日露戦争やサンフランシスコ平和条約などに関する資料を読み取り、活用して適切に表現させることによって、思考力・判断力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の日清戦争後の講和条約名を答える問いは、正答率が77.3%と高く、基礎的・基本的な知識は概ね身に付いていると考えられる。
- ・ (4)のウのサンフランシスコ平和条約が結ばれた背景にある冷戦構造（西側と東側、資本主義と社会主義）を答える問いは、正答率が31.7%と歴史分野の中で最も低く、戦後直

後の国際情勢に関する基礎的・基本的な知識の定着が図られていないと考えられる。誤答例としては、「東」、「連合国」が多かった。

- ・ (4)のオの日本の国連加盟の契機を答える問いは、正答率が48.3%とやや低く、当時の冷戦下の国際情勢とそこでの日本の位置付けに関する理解が十分図られていないと考えられる。主な誤答例としては、「日米安全保障条約」、「日中平和友好条約」が多かった。

〈今後の指導〉

- ・ 生徒の興味・関心を高めるような資料を活用して、生徒が主体的に調べたり考えたりするなどの活動を通して、疑問点を解決し、歴史を学ぶ意欲を高めるよう指導を工夫する。
- ・ 各時代の特色や時代の転換にかかわる歴史的事象を重点的に選び基礎的・基本的な知識の理解を図るとともに、各種資料から歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連をとらえ、自分の言葉で表現できるよう指導を行う。

③ 〈標準解答〉

1	(1)	国会	(2)	ウ	(3)	イ	(4)	(例) 憲法は、国の最高法規であり、法の中で最も強い効力をもつから。
	(5)	子ども(児童)の権利条約			(6)	(例) 国家同士が互いの主権を尊重するために、守らなければならないルールが必要であるから		

〈ねらい〉

国民の祝日に関する資料を基に、学習した内容に関連することを調べる場面の中で、国会や現代の行政、国民の権利に関する基礎的・基本的な知識の理解をみる。また、日本国憲法や国際法について、資料などに基づいた思考力・判断力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (6)の国際法の存在理由に関する問いの正答率は、38.2%と公民的分野の中で最も低い。「主権」という概念に関する理解が十分図られていないと考えられる。無解答も多く、誤答例としては、「主権をもつ機関がルールを定めている」、「主権者の定めたルールが必要だから」が多かった。

〈今後の指導〉

- ・ 公民的分野の学習は、生徒の家庭や学校、地域といった身近な生活と密接に結び付いていることに気付かせるとともに、日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して現代社会のかかえる問題を考察させるような学習の充実を図る。
- ・ 社会事象には必ず原因や背景があるので、教科書の太文字の語句の表面的な理解にとどまることなく、生徒に疑問をもたせながら原因や背景にまで踏み込んだ学習を図る。

〈標準解答〉

2	(1)	個	人	情	報	(2)	(例) 集めた預金を、個人や企業に貸し出して利子を取ることで利潤を得る。	(3)	A	イ
	(3)	B	ア	C	オ	(4)	エ	(5)	(例) 商店への無料送迎サービスをしてもらう。	

〈ねらい〉

買い物から連想する言葉に関する資料を基に、疑問や課題を調べる場面の中で、経済のしくみや社会的事象などに関する事項について、クレジットカードの特色や銀行のはたらき、需要供給の関係、消費者の権利と保護に関する基礎的・基本的な知識の理解をみる。また、

「買い物弱者」問題に関する解決策を適切に表現させることで思考力・判断力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の情報化社会の中で保護や管理が求められる個人情報に答える問いや(3)の需要と供給の関係を資料に即して判断する問い、(5)の買い物弱者対策を記述する問いの正答率は、それぞれ94.2%、86.0%、86.6%とかなり高く、基礎的・基本的な知識は十分身に付いている。
- ・ (2)の銀行が利潤を得るしくみを記述する問いや(4)のPL法に関する問いの正答率は、それぞれ56.3%、44.6%とやや低く、理解したことを自分の言葉で表現する力やPL法の趣旨に関する正確な理解が十分図られていないと考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 生徒の経済活動である消費を中心に、身近で具体的な事例を取り上げ、経済活動の意義について考察させるような学習の充実を図る。その際、経済に係わる様々な問題を解決していく努力を積み重ねていく中で、人間の生活が維持・向上してきたことにも気付かせ、理解させるようにする。

4 〈標準解答〉

(1)	ウ→ア→イ	(2)	ア	京都府	イ	(例) 長い間、政治や文化の中心だった。	
(3)	イ	(4)	(例) 冬の積雪が多いため、雪の重みで家がつぶれないように屋根の傾斜を急にしている。			(5)	エ

〈ねらい〉

日常生活の中で興味をもった貨幣の図柄について調査を行う場面の中で、様々な資料を使って、貨幣の歴史や古代の生活、地方自治に関する理解や、内閣総理大臣の資料や雨温図を読み取り、活用して適切に表現させることで、思考力・判断力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の昔の貨幣を時代順に並べる問いの正答率は26.3%で、すべての小問の中で最も低い。各時代の特徴を政治史的な側面だけでなく、実際の生活に即した側面からの理解が不足していると考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 3つの分野全体を通して、習得した知識を活用して、様々な資料を比較したり関連付けたりした学習の結果を、適切に表現できるよう指導を行う。
- ・ 補充的な学習、発展的な学習などを取り扱う際に、3つの分野の関連を重視した学習を工夫して展開する。